

学生ら

市場活性化へ「稲荷新聞」

中央・兵庫
入江地区 商店、イベント紹介

中央区と兵庫区にまたがる入江地区に住み込み、住民とともにまちづくりに取り組む大学院生らが昨年十二月中旬から、地元の稲荷市場の活性化イベントや市場の商店を紹介する「稲荷新聞」の発行を始めた。「市場では広告を出さない店が多いが、新聞に取り上げることで商売へのさらなる意欲につながれば」と期待を込めている。

神戸芸術工科大の大学院生らが取り組む「住みコミュニケーションプロジェクト」の一環。同大学院二年生の赤松麻衣さん(三巴)が執筆、パソコンでレイアウトもこなす。幅広い世代に読んでもらいたいと新聞の形式にこだわりの、新聞折り込みで同地区の住宅に配布。他の院生らも、市場内に回覧板を回して意見を募る



など協力している。

創刊号では、十一月に実施した稲荷芸術祭を取り上げた。特技を披露する「出たがり名人」や各展示イベント、稲荷市場内の商店の食べ物を取り上げ、客らの声も載せている。

次号は二―三月に発行

稲荷新聞を編集している赤松さん―兵庫区東出町、稲荷市場

予定で、その後も継続していくため、スポンサーを募集中。希望者には新聞を郵送している。詳細は <http://www.suamicomi.com>

(高田康夫)